令和5年度　小金井市地域課題分析・評価シート（きた エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

①地域活動が徐々に再開されているが、閉じこもったままの方もある。またそもそも男性の参加が少ない状況が継続している。【総・小】
②シニアにとってわかりやすい形で情報が送られていない。また、届けられる層が限られている。【総・小・他】
③老いていくなかで生じる困りごとへの備えが十分にできていない。【総・小・他】
④スマホ、オンラインを使いこなせる人が少ない。【総・小・他】
⑤リーダーになれる人材が不足している。【小・他】

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

①多くのグループが活動を再開。地域活動に参加している方の数やその活動量は増えている印象。しかし、民生委員からは、ご近所からの情報提供は入りづらいままだと聞く。ご近所同士での気軽な行き来の再開が進んでいない様子。特に、閉じこもりがちの一人暮らしの方の発掘が難しい状況が続いている。
　男性が参加しやすい活動の発掘に取り組むほか、地域活動に熱心な男性への聞き取りを実施。男性は「自己決定」という考え方が強いのか、女性のように口コミや友人の紹介等で仲間を増やしていくことが難しい印象。ほかの方法の検討が必要。
②包括とつながっていない層、包括を知らない層にも情報を届けられるよう、金融機関、スーパー、コンビニ、そのほか地域の協議体、会議体を通して連携のある事業所に対し、応援マップ、包括主催イベントのちらしの配架、配布などを依頼した。いったんOKとなっても、先方の事情により配架縮小、中止もあった。根気よく取り組む必要あり。
　シニアから「掲示板をよく見ている」と聞き、市民掲示板を積極的に活用。ただし、地域活動の再開に伴い、市民掲示板が混みあってきたため、つながりある町会長に依頼し、町会掲示板の借用を開始（緑町４丁目、本町2丁目、桜町）。今後も広げていきたい。
　公式LINEからの情報発信も強化。公式LINEで情報を得た方からの講座の申込が増えてくるなど、少しずつ利用が広がっている印象。若い層に向け、LINE以外のメディア利用についての検討も必要。
③「きた包括暮らし講座」を新設し3回開催。想定以上の参加者を得た。知りたい、学びたいというニーズが大きいことは実感。
　お金の啓発については、リーフレットを用いて各サロンで意見交換を実施したほか、市主催の朗読劇にも参加。「こんな備えを始めた」という報告はいまだ届かず。具体的なアクションへと移ってもらうためには何が必要なのかが見いだせていない。
④スマホ講座の案内をLINEで定期的に発信するほか、サロン等で出張スマホ相談会の周知を実施。今年度は開催希望なし。
　コロナの5類への移行に伴い、「やっぱりリアルがいい」との声多数。オンラインを学びたい、使いこなしたいというニーズは薄れている。
⑤高年齢者雇用安定化法改正により定年が伸びたうえ、物価高などの生活不安から、無償の地域活動の参加者の高齢化がより進んだ印象。元気なシニアや現役世代の地域参加を促すためには、経済的なインセンティブの導入が必要とも思われる。
⑤いまの住まいを出なければならないため、地域活動の継続が難しいとの相談があり、社協の居住支援を紹介したケースが1件あり。

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査　　[小]：小地域ケア会議（2層協議体）
[個]：個別地域ケア会議　　[総]：総合相談
[他]：その他（懇談会）

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

〇新たな活動を始めるきっかけがない。(①)
〇情報の入手先がわからない。新しい情報が入りにくい。(①、②、③、④)
〇対面以外のコミュニケーションが苦手である。スマホ等習熟に時間がかかっている。(②、③、④)
〇子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。(③)
〇自分から積極的に動くこと、新しいことに取り組むのは億劫だ。(①、②、③、④)
〇自らが活動の中心になるのは荷が重い。(⑤)

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

〇コロナでいったん中断した地域住民主体の活動の再開が、支え手の高齢化や人材不足により、スムーズに進んでいない。
〇もともと男性が中心となっている活動場所が少ない。
〇物価高や年金の受給額の減少などで、就労期間を延長せざるを得ないシニアが一定数存在する。シニアだから時間があるとは限らない。
〇メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
〇スマホやネットなどを気軽に継続して学べる場所がまだ少ない。
〇地域の活動のリーダー同士が気軽に話し合える場が少ない。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和5年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きた エリア）

活動目標

①シニアやその子ども世代に情報を届けるルートを新たに開拓していく。
②地域活動を担うリーダーが安心して活動を継続できるよう、リーダー同士の情報共有、連携を促す。
③シニア層に関心の高いテーマについて、地域住民、公民館活動グループ、企業・商店等とも連携しながら、多世代を対象にした啓発活動を行う。
④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。

活動目標の達成状況（結果評価）

①地域のシニアのグループに直接情報を届けるだけでなく、町会の役員と連携し、地域活動にはつながっていない層への情報提供を依頼した。
①幅広い層の目に触れるよう、スーパー、金融機関、商店等にも冊子やちらしの配架を依頼。
①シニアの子ども世代（現役世代）にも情報が届くよう、協議体等で連携する現役世代に彼らのネットワークのなかでの情報発信を依頼。ちらし等の配架、Facebookを通しての発信について協力を得た。
②さくら体操自主グループリーダー連絡会を2回開催。連携や情報共有ができた。
②サロン主催者の連絡会開催を目指し、リーダーの意見を聴取。開催の希望を確認した。
③「きた包括暮らし講座」を新設。相続、防災、施設入所をテーマに3回実施。「桜町オレンジカフェ」では生前整理をテーマにしたミニ講座を開催。そのほか、サロンやさくら体操自主グループでの講座開催を支援。
③お金の啓発については、リーフレットを用いて各サロンで意見交換を実施したほか、市主催の朗読劇に参加。きた圏域開催時には、緑長生会や金融機関に協力を依頼。参加者には意見交換以上の収穫を得てもらえるよう、内容の充実に努めた。今後の啓発活動の展開を見据え、町会や地域活動主催者に直接声かけし、参加いただいた。
④協議体で繋がりのある地域の薬局の薬剤師、民生委員に、サロン活動の支援者として加わってもらうことができた。
④地域住民のための活動に取り組む個人や団体について、メディアにプレスリリースを送付するなどの支援を実施。テレビで取り上げられ、有償での講師依頼に繋がったケースがあった。

手段	R4	R5	R6	結果
圏域内の地域活動を発掘し、情報提供を行う。特に今年度は男性にも参加しやすい活動の発掘に力を入れる。		→	→	・健康麻雀、将棋、合唱の団体と新たにつながった。このうち将棋の会には、C事業終了者の活動への参加のサポートのため、個別ケア会議でもご協力いただいた。
認知症、介護、終活、お金の管理など、シニア層が知っておくべき事柄について、認知症カフェのほか、シニアやその子ども世代が気軽に参加できる講座を新たに開発し、啓発を進める。これにより子ども世代への包括の認知度も高めていく。地域のサロン等での講座開催も引き続き支援する。	→	→	→	・「桜町オレンジカフェ」を年間11回開催。認知症の方にも楽しんでいただけるレクリエーション的なプログラム、介護予防体操、シニア層に関心の高いテーマでのミニ講座などを実施。開催にあたって、地域で活動する個人や団体、企業などと連携。 ・「きた包括暮らし講座」を新設。相続、防災、施設入所をテーマに3回実施。いずれも想定以上の参加があり、包括主催講座へのニーズがあることが実感された。このほかお金の啓発については、リーフレットを用いて各サロンで意見交換を実施。市主催の朗読劇にも参加。 ・このほか、地域のサロンやさくら体操自主グループに対し、講座の開催支援を実施。リハビリ職、管理栄養士、管理薬剤師、防災士、民間の配食業者などに協力いただいた。
応援ブック・マップを高齢者個人や商店、事業所、サロン、老人会などに幅広く配布する。また、包括からの新しい資料をその都度スムーズに配架してもらえるよう、包括常設コーナーの設置に向けて、企業、商店等との連携を強化する。		→		・応援ブック・マップともに数に限りがあり、効果的な配布を心掛けた。すでに何らかの活動に参加している個人ではなく、活動の主催者、老人会・町会の役員、民生委員等に配布し、そうした方々からシニア個人への情報提供に期待した。 ・協議体で連携のある関係者から紹介を受け、スーパー、コンビニ、金融機関などにも配架を依頼。一時期、イトーヨーカドーのあんしんサポートセンターの目立つ場所にコーナーを設けてもらったこともあったが、先方の事情で規模縮小となっている。三井住友信託銀行、多摩信用金庫には、お金の啓発の朗読劇の周知に合わせ、リーフレットやポスターを配架いただいた。
シニア層からの新たな人材確保が難しいなか、地域の活動の継続のため、さくら体操自主グループに加え地域のサロンに対しても、主催者の連絡会（2層協議体）、勉強会開催等により支援。社協との連携も強化する。	→	→	→	・さくら体操自主グループリーダー連絡会を、昨年度に続き2回開催。連携、情報共有に貢献できた。 ・「ピアサロン」解散に伴い協議体を開催。新たな協力者を発掘し、「おしゃべりサロン」の名称で活動を継続させた。その後も継続のための協議体を開催し、運営のサポートを実施。 ・サロン主催者連絡会については、各主催者から賛同を得たが、包括が業務多忙で開催できず。
関係機関、企業、商店の協力を得て、きた包括LINE公式アカウントの一層の普及を目指す。市・包括からの情報だけでなく、シニアにとって役立つ地域の情報を幅広く伝えていく。		→	→	・介護福祉課や包括からの情報にとどまらず、地域安全課、交通対策課、警察、消防、公民館、まちおこし協会、シルバー人材センター、悠々クラブ等からの、シニアの生活に関わる情報や、シニアにも楽しんでいただける地域のイベント、講習会、趣味活動の情報などを発信した。 ・登録者が180名ほど（6.4.8現在）。週に平均2～3件の情報を発信。
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。	→	→	→	・2層協議体で「梶野町会夏祭り」に参加することにより、地域課題に取り組む意欲のある方を発掘できた。また、そうした方々を繋ぐことが「梶野町防災会」立ち上げの一助となった。 ・C事業終了者に対し、将棋サークルを紹介。サークル主催者には本人の障害特性を理解したうえで参加のサポートをしてもらえるよう、リハ職も交えた個別ケア会議を開催し、高次脳機能障害についてサークル主催者に学んでいただく機会にもした。

※　**活動目標とは：** ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和6年度　小金井市地域課題分析・評価シート（きた エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・小】
②高齢になると起こりうる困りごとへの備え、急なけが、疾病、災害など、いざという時の備えが十分にできていない。【総・小・二】
③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
④必要な情報があまねく届いていないため、使えるサービスを活用できずにいる。【総・小・他】
⑤スマホ、オンラインで提供される便利なサービスを使いこなせる人が少ない。【総・小・他】
⑥リーダーになれる人材が不足している。【小・他】

根拠情報

[二]：ニーズ調査　　[小]：小地域ケア会議（2層協議体）
[個]：個別地域ケア会議　[総]：総合相談
[他]：その他（懇談会）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

〇新たな活動を始めるきっかけがない。（①）
〇情報の入手先がわからない。情報への感度が低い。（①、②、④、⑤）
〇対面以外のコミュニケーションが苦手である。（②、④）
〇根気よく取り組むのが難しい。（②、⑤）
〇子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。（①、②）
〇自ら積極的に動く、新しいことに取り組むのは億劫。（①、②、④、⑤、⑥）
〇自らが活動の中心になるのは荷が重い。（⑥）
〇収入が年金だけでは、長い老後が経済的に不安。（②、⑥）

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

〇コロナで中断したご近所付き合いが、あまり再開されていない。町会の加入率も低下傾向。
〇未婚化の進んだ世代が老後を迎え、一人暮らし高齢者が増加傾向。
〇医療、介護などの制度維持のために高齢者の負担が増している。
〇寿命が伸び、人生100年を想定した老後のプランが必要になっている。
〇メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
〇スマホやネットなどを気軽に継続して学べる場所がまだ少ない。
〇地域の活動のリーダー同士が気軽に話し合える場が少ない。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和6年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きた エリア）

活動目標

①シニア層が知っておくべきテーマについて、「きた包括暮らし講座」ほかの講座、イベントで啓発。包括とまだつながっていない層に届けるために、地域住民、公民館活動グループほか、新たな連携先を開拓する。
②シニアだけでなくすべての世代に関心の高い「防災」をテーマに、地域住民と協力しながら多世代を対象にしたイベント、講座を実施する。
③地域活動を充実させるために、リーダー同士の情報共有、連携をサポートする。
④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R5	R6	R7	結果
市内の地域活動を発掘し情報提供を行う。引き続き男性が参加しやすい活動を意識しながら情報収集するほか、男性の主催者、参加者へのインタビューも実施。男性の活動参加のきっかけを探る。				
認知症、介護、終活、お金の管理など、シニア層が知っておくべき事柄について、「きた包括暮らし講座」、認知症カフェなどで取り上げ啓発する。地域のサロン等での講座開催支援も継続。				
年明けより各地で地震が頻発しており、世代を超えて防災への意識が高まっている。防災をテーマに地域住民と協力しながら、多世代が参加できるイベント、講座の開催に取り組むことで、地域住民の「つながり」作りをサポートする。				
応援ブック・マップ、その他包括からのお知らせを、高齢者個人のほか商店、事業所、サロン、老人会などに広く配布する。新しい資料をその都度スムーズに配架してもらえるよう、常設コーナーの設置に向けて、企業、商店等との連携を強化する。				
シニア層からの新たな人材確保が難しいなか、地域の活動の継続のため、さくら体操自主グループのほか、サロン等の地域活動についても、連絡会（2層協議体）、勉強会開催等により支援する。				
関係機関、企業、商店の協力を得て、きた包括LINE公式アカウントの一層の普及を目指す。シニアを支える若い世代にも届けられるよう、LINE以外のサービスの利用を検討するほか、情報発信についても地域の協力者と連携する方法を模索する。				
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。				

※　**活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和５年度　小金井市地域課題分析・評価シート（みなみ エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

1.（総）※孤立しがちな高齢者へのインフォーマル支援が少ない
※閉じこもりがちな独居・高齢世帯・高齢男性

2.（小）（他）住民どうしのつながりが少ない

3.（小）（他）コロナ禍で※対面での情報手段が弱くなっている
※地縁組織・近隣住民同士の対面活動自粛による身近な情報の減少。また、感染対策緩和のなか、個人や組織毎に自粛対応に濃淡が観られるようになってきている。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

1.（総）新規認カフェの立ち上げ支援／①住民、JKK、包括によりR5.4より認カフェが隔月開催。住民主体化が今後のテーマ。②坂下認カフェ立上げ支援。整体院とカフェ、コインランドリー経営者による民間への支援。 **さくら体操自主サークル化**／貫井住宅住民向け自主サークル立上げ支援。住民以外への開かれた会場化を期待し今後も支援。 **天神ポッチャの会自主化支援**／涼風ﾃﾞｲの地域貢献活動を支援しR6.4より自主開催
2.（小）（他）スカイコーポラス/ｼﾆｱﾗｲﾌ専門委員会の定着／住民相互が見守りあう活動の月例化。必要時に支援。**（小）（他）サロン連絡会二層協議体へ**／活動やサロン参加者の課題共有・情報交換の場とし定着。課題検討の場に移行。リハ活合同事業も実施。
3.（小）（他） みなみ包括公式LINEアカウント情報発信／高齢者向けお役立ち情報のオンライン発信。高齢者のスマホLINEユーザーやCMなどへの情報わ発信。**包括ニュース継続発行**／圏域内の自治会・町会、民生委員、通いの場団体、要支援・事業対象者、公共施設、医療・介護関係機関などへ広く配布。包括の情報発信ツールとして定着。（2000部／隔月発行）**課題啓発寸劇開催**／金銭管理テーマに朗読劇4圏域にて実施。興味関心テーマの一つ

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査　[小]：小地域ケア会議(2層協議体)
[個]：個別地域ケア会議　[総]：総合相談
[他]：その他（懇談会など）

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

・①　外出する機会が少ない
・①　認知面の低下（MCI）により困りごとが増える
・①②　ちょっとした相談をできる相手が近隣にいない
・①②　他者の支援を拒否する
・②③　困りごとに対して有効な情報が分からない
・①②③　感染症による自粛や周囲への配慮
・①②③　多様な情報手段への対応能力低下

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

・①②　高齢者（R5は高齢男性）の社会参加の場が少ない
・②　認知機能の低下に気づく人がいない
・②　本人の生活歴・意向を知っている人がいない
・①②　本人は困っていない
・③　情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
・①②　社会の多様化に加え感染症により個別化が進んでいる
・①②③コロナ禍で社会資源へのアクセス機会低下

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和５年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみ エリア）

活動目標

①孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どのように生活をしていきたいかを把握する
②住民が必要と感じている情報を把握する。
③近隣者で顔の見える関係作りを行う
④多世代交流やICT活用による多様で多層的繋りづくり
⑤圏域内のコミュニケーション手段強化

活動目標の達成状況（結果評価）

①②③天神ボッチャの会自主活動化支援。貫井住宅での認カフェとさくら体操サークル、坂下認カフェの立上げ支援。／①②③サロンリーダー連絡会を二層協議体の場として活動活性化や男性参加などの意見交換・課題検討開催。／①②③応援ブック発行に伴う活動調査実施。／①②お金に関する困り事啓発寸劇を4圏域にて実施／④⑤包括ニュース隔月発行と公式LINEアカウントによる情報発信。住民、利用者、関係機関との定期配信で包括周知を進める。

手段	R3	R4	R5	結果
①②自治会・町会、通いの場、総合相談などでニーズを把握する。	→	→	→	サロン連絡会や貫井住宅役員と協議体を重ねる。スカイコーポラス専門員会への参加。その他、通いの場訪問や自治会役員・民生委員などとの連携をする中で情報把握を行う。ようやくコロナ禍前の様に町会行事等が復活され地域のコミュニケーションが戻ってきている。
⑤みなみ包括ニュースの定期発行。圏域内配布し、住民や地域の情報ツールとして強化・定着させる。LINEやZoomなどのｵﾝﾗｲﾝﾂｰﾙの並行活用	→	→	→	包括ニュースの自治会・町会、関係機関等への隔月回覧依頼で訪問し連携づくり。隔月2,000部発行。公式LIENでも地域情報や包括ニュースを情報発信(登録者数233名R6.4.15時点)
④⑤住民や通いの場などへの研修・会合・学びの場づくりや情報提供を行う。その他、関係機関や工学院など地域連携を状況に応じ順次再開継続する。※必要に応じITC等を適宜活用。	→	→	→	地域リハビリテーション活動を活用し、通いの場20か所に派遣し予防啓発活動実施。その中で4サロン合同のポールウォーク講習なども実施する。／市内4圏域で金銭管理困り事寸劇啓発。工学院は学生の感染症罹患がまだあり活動休止が続く。※ITC活用についてはコロナが5類となったことで、住民同士の交流は対面へ変化。貫井住宅と光明第二保育園の交流も団地公園での訪問などの際の交流に移行。
①②③④小規模での話しあいの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、共通の課題を検討する。	→	→	→	、貫井住宅(3)、サロン連絡会(4)、天神ボッチャの会(3)などで協議体開催。
①②③④新規通いの場の立ち上げを支援する。通いの場の連携(ネットワークや連絡会)づくりを支援する。	→	→	→	サロン連絡会が二層協議体の場として年四回定期開催。／自治会、JKK、包括が協力し貫井住宅で認カフェ定期開催。／民間事業者による坂下認カフェ立上げ支援。／貫井住宅住民中心のさくら体操サークルを自主化。／涼風デイの地域貢献活動で始まったボッチャの会自主化支援R6.4より自主開催。
①②アンケート、通いの場訪問、総合相談などを通して男性の社会参加課題の把握			→	集まりへの随時参加ニーズ把握から、包括職員が個々に訪問。個別対応による情報提供や支援に移行。サロン連絡会や個別のサロン訪問においてもニーズ把握実施。
①②民生委員さんとの連携。町別協議会への参加や、75歳、80歳訪問に合わせ1人暮らしの方の自宅に同行訪問しニーズを把握する。（訪問事業再開が要件）	→	→	→	R5も以前の様な訪問活動復活せず同行訪問無し。貫井南町町別協議会・前原町町別協議会への出席。R5年度は感染症対策緩和で玄関先での対面なども増えており民生委員の方々より、訪問先高齢者の二年間の自粛の様子をお聞きする。※圏域内、全民生委員へ包括ニュースの定期郵送

※　**活動目標とは：** Ⅱ とⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和６年度　小金井市地域課題分析・評価シート（みなみ エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

1.（総）※孤立しがちな高齢者へのインフォーマル支援が少ない
※閉じこもりがちな独居・高齢世帯・高齢男性

2.（小）（他）住民どうしのつながりが少ない

3.（小）（他）コロナ禍で※対面での情報手段が弱くなっている
※地縁組織・近隣住民同士の対面活動自粛による身近な情報の減少。また、感染対策が5類に緩和され、高齢者毎で自粛対応に濃淡が観られるようになってきている。

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査　[小]：小地域ケア会議(2層協議体)
[個]：個別地域ケア会議　[総]：総合相談
[他]：その他（懇談会など）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

・①　外出する機会が少ない
・①　認知面の低下（MCI）により困りごとが増える
・①②　ちょっとした相談をできる相手が近隣にいない
・①②　他者の支援を拒否する
・②③　困りごとに対して有効な情報が分からない
・①②③　今も残る感染症による自粛や周囲への配慮
・①②③　多様な情報手段への対応能力低下

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

・①②　高齢者（特に高齢男性）の社会参加の場が少ない
・②　認知機能の低下に気づく人がいない
・②　本人の生活歴・意向を知っている人がいない
・①②　本人は困っていない
・③　情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
・①②　社会の多様化に加え感染症により個別化が進んでいる
・①②③コロナ禍で社会資源へのアクセス機会低下

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和６年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみ エリア）

活動目標

①孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どのように生活をしていきたいかを把握する
②住民が必要と感じている情報を把握する。
③近隣者で顔の見える関係作りを行う
④多世代交流やICT活用による多様で多層的繋りづくり
⑤圏域内のコミュニケーション手段強化

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R4	R5	R6	結果
①②自治会・町会、通いの場、総合相談などでニーズを把握する。	→	→	→	
⑤みなみ包括ニュースの定期発行。圏域内配布し、住民や地域の情報ツールとして継続発行。 LINEやZoomなどのｵﾝﾗｲﾝﾂｰﾙの並行活用	→	→	→	
④⑤住民や通いの場などへの研修・会合・学びの場づくりや情報提供を行う。その他、関係機関や工学院など地域連携を状況に応じ順次再開継続する。 ※必要に応じITC等を適宜活用。	→	→	→	
①②③④小規模での話しあいの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、共通の課題を検討する。	→	→	→	
①②③④新規通いの場の立ち上げを支援する。通いの場の連携(ネットワークや連絡会)づくりを支援する。	→	→	→	
①②アンケート、通いの場訪問、総合相談、二層協議体などを通して男性の社会参加課題の把握		→	→	
①②民生委員さんとの連携。同行訪問での実態把握。町別協議会への参加し、75歳、80歳訪問での1人暮らしの方ニーズを把握。	⇨	⇨	⇨	

※　**活動目標とは：** Ⅱ と Ⅲ を背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和5年度　小金井市地域課題分析・評価シート（ひがし　エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

1.（小）（総）（二）情報が行き届いていない。
生活に関わる事柄から多岐にわたる相談がある。
情報発信の方法に課題がある。
2.（小）（総）（二）生活に係るちょっとした困り事がある。
「入浴ができる場所がない」「ペットの世話について」等。
3.（総）（小）誰もが気軽に立ち寄れる居場所がない。
（年齢、障がい等関係なく）
男性が集える場所、活動が少ない。

根拠情報

（二）：ニーズ調査　（小）：小地域ケア会議(2層協議体)
（個）：個別地域ケア会議　（総）：総合相談
（他）：その他（懇談会）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

1.紙媒体の周知の継続、LINEによる情報発信を行った。
（「ひがし包括LINEを見て来ました」という発言がある。）
2.ペット情報を集約する等、情報収集を行った。
3.新規居場所の立ち上げ、活動の継続支援を行った。
ぷらっとふぉーむ六地蔵運営による町内清掃活動が始動。
多世代、男女の参加、商業との連携を目指している。

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

1.情報を知らない。
・知りたい情報が多様な為、どこに相談したら良いか不明。
・もともと、情報を知らない。
・情報収集の方法が限定される。（口コミや紙媒体）
2.高齢者のひとり暮らし（夫婦のみ）、健康不安や体力低下。
3.居場所について知らない。歩いて行かれる地域が限定される。
居場所の減少。

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

1.活用できる、情報をまとめた情報誌やリストを知らない。
身近にない。
2.住環境面が課題となることがある。
3.居場所に活用できる場所がない、少ない。遠い。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意さ
生活課題

令和5年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし　エリア）

活動目標

1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
2.活動団体の活動支援や地域活動グループを訪問し情報収集を図る。
3.新規居場所の立ち上げ。
4.2層協議体を開催し、自治会・活動団体、地域住民地域課題について検討を行う。
5.「お金の管理」啓発活動を1.2SC連携し、地域住民に向けて行う。

活動目標の達成状況（結果評価）

1.情報発信を継続して行っている。
2.活動団体運営支援を行い、活動拠点がなくなった後も活動の継続が行えている。
3.さくら体操自主グループ、ぷらっとふぉーむ六地蔵自前活動。
4.2層協議体を開催。地域課題の検討までは行えていない。
5.お金の管理啓発活動を4圏域、お元気サミットで実施した。

手段	R2	R3	R4	R5	R6	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。社会資源情報の収集を行う。	→	→	→	→	→	情報発信を継続して行った。応援ブックの情報更新、冊子の改訂を行った。
②活動団体へ訪問を行い、顔の見えるつながりを継続する。		→	→	→	→	活動団体へ訪問を行っている。出席のお誘いをうけることがある。
④2層協議体の開催。新規居場所の立ちあげや活動再開・運営支援を行う。		→	→	→	→	新規活動団体の立ち上げ、2層協議体の開催、活動運営支援を行った。
③総合相談等から課題抽出を行う。町会、民生委員からも情報を得る。	→	→	→	→	→	総合相談からの課題抽出も意識的に行った。
⑤圏域毎の公民館を活用し「お金の管理」の啓発活動を行う。			→	→		4圏域各々で啓発活動を実施。お元気サミットでも実施できている。

※　**活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。
※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和6年度　小金井市地域課題分析・評価シート（ひがし　エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

1.小 総　必要とされる情報が多岐にわたる。
（ペット・見守り・生活支援等）

2.小 総　生活に係るちょっとした困り事がある。
即時対応を望む相談がある。

根拠情報

二：ニーズ調査　小：小地域ケア会議(2層協議体)
個：個別地域ケア会議　総：総合相談
他：その他（懇談会）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

1.高齢期における困りごとが多様化している。
・知りたい情報、相談先が分からない。
・もともと、情報を知らない。
・情報収集の方法が限定される。（口コミや紙媒体）
2.高齢者のひとり暮らし（夫婦のみ）、健康不安や体力低下。

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

1.情報の整理、把握ができていない。
包括認知度が上がり、相談件数が増加している。
（近隣、自治会からの相談）
2.住環境面が課題となることがある。
情報（サービス）の周知が必要。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意さ
生活課題

令和6年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし　エリア）

活動目標

1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
2.活動団体の運営支援や活動団体を訪問し関係性を構築する。
3.2層協議体を開催、参加する。
4.包括全体で総合相談等から課題抽出を行う。

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R3	R4	R５	R６	R７	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。自治会・町会等から依頼があれば出張対応をする。						
②活動団体を訪問し、顔の見えるつながりを継続する。運営支援を行う。						
④2層協議体の開催、参加する。横のつながりの機会を設ける。						
③総合相談等から課題抽出を行う（抽出作業の確立）。入力・検討の場を定期開催する。情報整理の方法を検討する。						

※　**活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和５年度　小金井市地域課題分析・評価シート（にし　エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

①　(他)ウイズコロナでの活動場所や人数の制限がある。
②（他）（総）コロナ禍での孤立化。
③　(他)スマホを活用できていない。
④　(二)体操以外の活動の場を増やす。
⑤　(二)男性が気軽に参加できる社会資源が少ない。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

①新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行し、活動場所や人数制限が解除され、本来の活動形態に戻りつつある。
②感染リスクを気にして外出を控えていた高齢者のADL低下が散見された。介護認定につながったケースが目立った。
③依然、新しいことを取り入れることに抵抗感がある状況は変わらず、スマホを所持していなかったり使いこなせていない。
④応援ブック改訂発行をするにあたり、体操以外の活動団体でまだ把握しきれていない社会資源が多々あることがわかった。
⑤男性向けの社会資源を新たに作ることよりも、既存の社会資源でまだ把握しきれていない物を情報収集することが先決と感じた。

根拠情報

二：ニーズ調査　小：小地域ケア会議
個：個別地域ケア会議　総：総合相談
他：その他（懇談会・2層協議体）

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

①新型コロナウィルス感染防止の為、外出を控えている。
②対面以外でコミュニケーションを取ることに抵抗を感じている。
③地域資源の情報を知らない。
④電話とメール以外の使い方を知らない。
⑤スマホの使い方を気軽に質問したいのに、質問できない。

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

①新型コロナウィルスの流行によりサロン・居場所等の活動縮小
②居場所等地域資源で、多様な活動の社会資源が少ない。
③支援をすることが可能な人的資源がない。
④地域との交流が少なく情報を得にくい。
⑤情報を得るツールがわからない。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和５年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし　エリア）

活動目標

①ウイズコロナの時代でも人とのつながりを絶やさないようにする。
②地域情報の提供。
③多様な社会参加の場（居場所等）となり得る資源を探す。
④支援の仕組みを構築できる資源（担い手、団体など）を探す。
⑤「高齢者になるとおこりうること」の啓発活動を行う。

活動目標の達成状況（結果評価）

①新型コロナ感染症が５類感染症に移行し、活動場所や人数制限が解消された。個々人がマスクを装着するなど対策しながら積極的に活動参加していた。②応援マップの配布。LINEによる包括センターだよりの発信を開始した。③前年度と同様、応援ブックに掲載しきれていない活動団体の発掘を行った。本町住宅サロンでは、市内の保育園児との交流（園児による歌の披露、住民とのボッチャ大会）を行った。④昨年度新規立ち上げした本町住宅けんこうサロンの運営担い手となる住民を発掘できず。引き続き発掘していく。⑤「高齢者になるとおこりうること」の啓発活動として、４包括各圏域の公民館や「お元気サミット」にて、市民参加型の朗読劇を行った。

手段	R４	R５	R６	結果
①②⑤にし包括支援センターだよりを年４回、LINEで情報提供する。	→	→		にし包括支援センターだよりのほか、適宜必要情報をLINE で情報発信した。
①②応援ブック・マップを地域高齢者の目にふれる集まる場所に置いてもらう。	→	→		応援ブック、応援マップを、圏域内の掲載団体、居宅介護支援事業所、カフェ、公民館等に配布・設置依頼した。
①③④⑤地域福祉コーディネーター、ファシリテーターと協働し地域とつながる。	→	→		JKK住宅集会所での居場所作りについて、住まいるアシスタント、社協ボランティアセンター、地域福祉コーディネーターと意見交換行った。
①③④現在活動している団体等を把握する。	→	→		圏域内の活動団体を訪問し、活動の様子や雰囲気の把握を行った。必要に応じて個別相談対応した。
②ネット環境等の活用	→	→		にし包括支援センターのLINEによる情報発信を開始した。
①③④スマホミニ講座・相談会(LINE活用講座含む)	→	→		個別スマホ相談会の開催を検討するも、ボランティアの調整がつかず。
⑤圏域内の通いの場で啓発活動を行う。		→		４包括各圏域の公民館にて、市民参加型の朗読劇による啓発活動を行った。

※　**活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和６年度　小金井市地域課題分析・評価シート（にし　エリア）

Ⅰ．地域課題と考えられる課題

①（総）外出自粛によりADLが低下してきている。
②（他）スマホへの興味・関心が薄く、活用できていない。
③（個）歩いて行かれる距離に多様な活動の場が少ない。
④（二）男性が気軽に参加できる社会資源が少ない。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

根拠情報

二：ニーズ調査　小：小地域ケア会議（２層協議体）
個：個別地域ケア会議　総：総合相談
他：その他（懇談会）

Ⅱ．考えられる背景（高齢者等要因）

①コロナ期間中に体力・気力が低下してしまった。
②地域資源の情報を知るための手段を知らない。
②スマホでは電話とメール以外の使い方を知らない。
②スマホの使い方を気軽に質問したいのに、質問できない。
③行動範囲が狭い。
④男性の社会参加率が低い。

Ⅲ.考えられる背景（環境要因）

①コロナ感染予防から、外出の自粛。
②情報を得るツールがわからない。
②スマホを学べる環境が圏域内にない。
③活動できる施設などが少ない。
④社会資源を把握しきれていない。

※　**地域課題とは：**地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和６年度　小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし　エリア）

活動目標

①地域情報の発信をしていく。
②多様な社会参加の場（居場所等）となり得る資源を開発する。
③２層協議体を開催し、地域課題について検討する。
④男性が興味・関心を持って参加できる社会資源を開発する。

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R５	R６	R7	結果
①にし包括支援センターだよりを年４回、LINEで情報提供する。	→	→		
①応援ブック・マップを、高齢者向け講座開催時に参加者に向けてPRする。	→	→		
②③④地域福祉コーディネーターと協働し、活動支援や資源開発を行う。	→	→		
②③④現在活動している団体を把握し関係性を構築する。	→	→		
①②④スマホミニ講座・相談会(LINE活用講座含む)等を開催する。	→	→		
②④男性が多く参加する活動団体を把握し関係性を構築する。		→		

※　**活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。
※　**手段とは**：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。